

SPODフォーラム2023

2023年8月24日(月)13:00~15:00 2402E

# 教学マネジメント入門

広島市立大学

山咲 博昭

[h-yamasaki@hiroshima-cu.ac.jp](mailto:h-yamasaki@hiroshima-cu.ac.jp)

淑徳大学

荒木 俊博

[araki-t@daijo.shukutoku.ac.jp](mailto:araki-t@daijo.shukutoku.ac.jp)

# 講師



山咲 博昭

広島市立大学

教育基盤センター 講師  
(センター長補佐)

<https://researchmap.jp/hysaki>

荒木 俊博

淑徳大学

学長室 課長

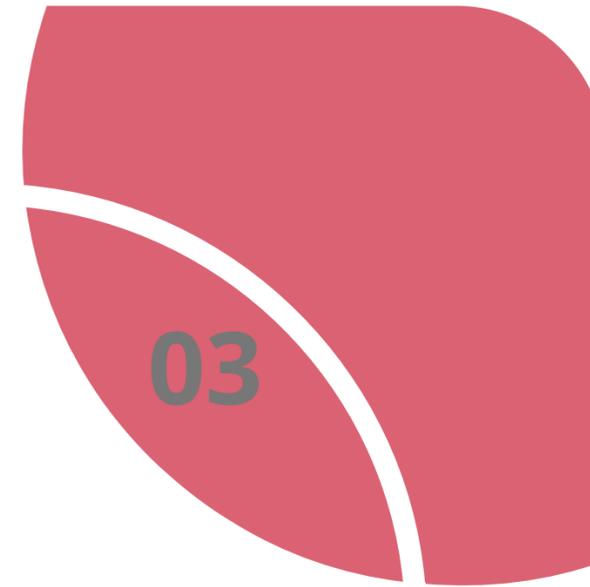
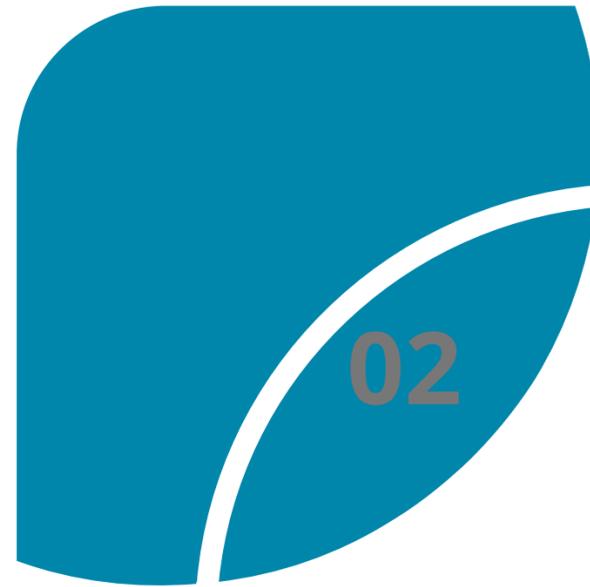
<https://researchmap.jp/toshihiro-a>



# 本講座の到達目標

## 到達目標②

学修者本位とは何かを説明することができる。

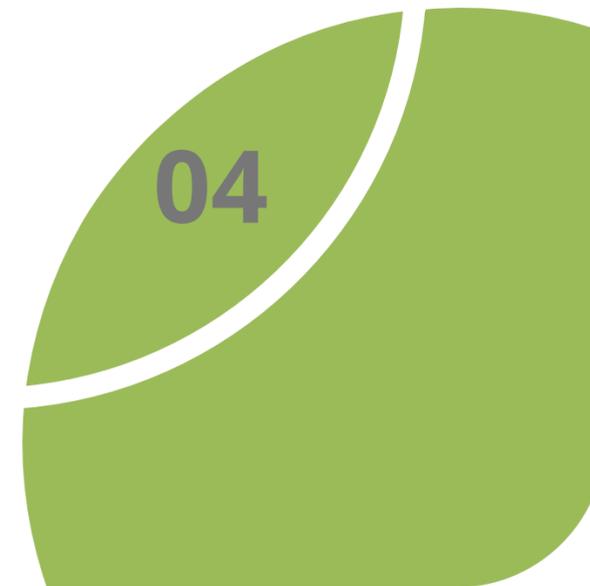
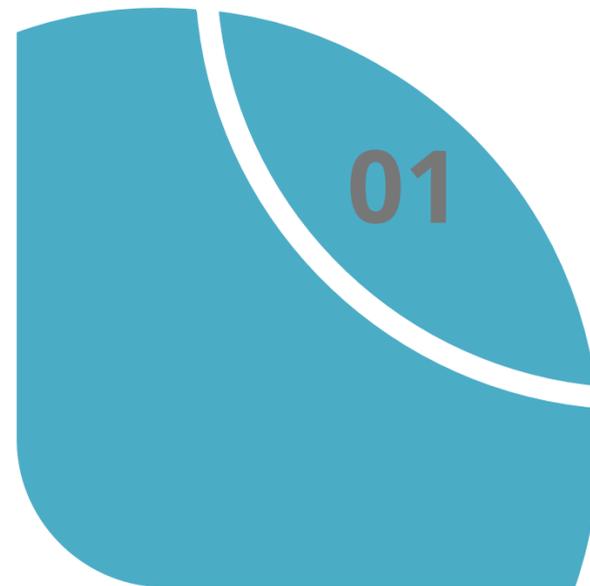


## 到達目標③

所属組織における教学マネジメントの課題を抽出することができる。

## 到達目標①

教学マネジメントの5つの柱を説明することができる。



## 到達目標④

教学マネジメント上の課題の解決案を提案することができる。

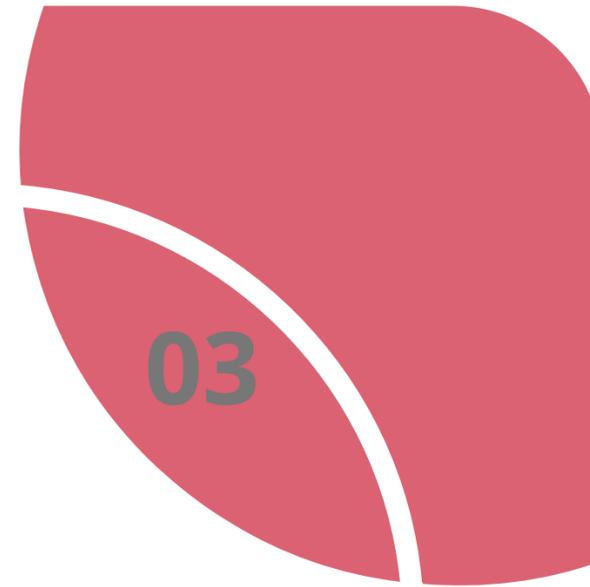
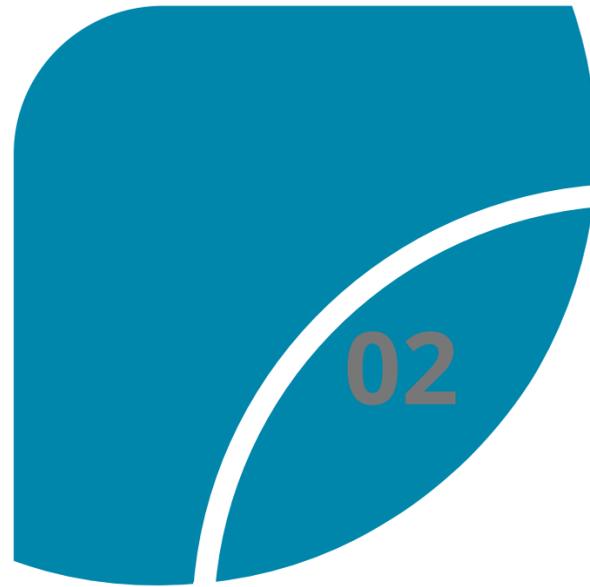
# インプット① 教学マネジメント 指針の5つの柱



# 本講座の到達目標

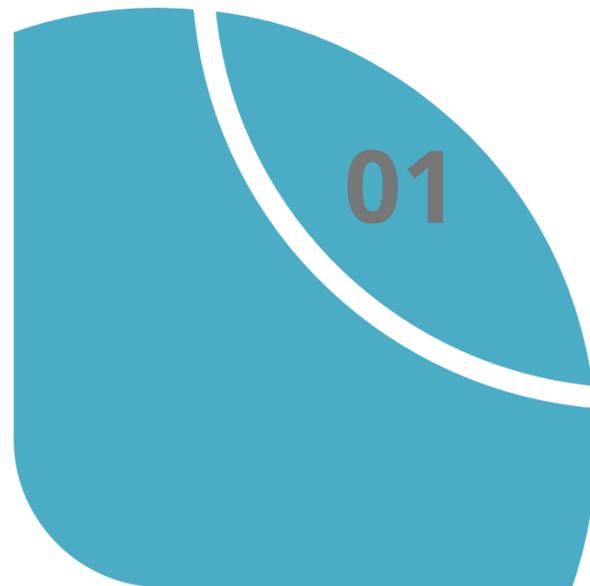
## 到達目標②

学修者本位とは何かを説明することができる。



## 到達目標③

所属組織における教学マネジメントの課題を抽出することができる。



## 到達目標④

教学マネジメント上の課題の解決案を提案することができる。

## 到達目標①

教学マネジメントの5つの柱を説明することができる。

# ■ インプット①の構成

1. 教学マネジメントが求められる背景
2. 教学マネジメント指針とその構造
3. 指針から読み解く5つの柱

# ■ 教学マネジメントが求められる背景

Q.皆さんは、質保証や認証評価、教学マネジメントは何のために必要だと思いますか？

1. 認証評価をクリアするため
2. 法令対応を行うため
3. 補助金や外部資金を獲得するため
4. 政府や文部科学省等の政策に対応するため
5. 大学の理念・目的を実現するため
6. 学生の成長に資するため
7. その他
8. 分からない

# ■ 教学マネジメントが求められる背景

## 教学マネジメントの定義

(文部科学省, 2020)

- 教学マネジメントは「大学がその教育目的を達成するために行う管理運営」と定義でき、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである（大学設置基準等の法令、設置認可審査、認証評価制度等の国が責任を有する質保証と一体不可分の側面がある）。

# ■ 教学マネジメントが求められる背景

	進学率	学生の選抜原理	高等教育機関の規模
<b>エリート型</b> (~1962)	15%未満	<b>中等教育での成績または試験による選抜（能力主義）</b>	同質性 （共通の高い基準をもった大学と専門分化した専門学校）
マス型 (1963~2004)	15~50% 未満	能力主義＋ 個人の教育機会の均等化原理	多様性 （多様なレベルの水準をもつ高等教育機関，総合制教育機関の増加）
<b>ユニバーサル・アクセス型</b> <b><u>(2005~)</u></b>	50%以上	<b>万人のための教育保証＋ 集団としての達成水準の均等化</b>	<b>極度の多様性</b> （共通の一定水準の喪失，スタンダードそのものの考え方が疑問視される）

※表の引用 ([https://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/yamamoto/2002/iituka\\_04\\_02.html](https://berd.benesse.jp/berd/center/open/report/yamamoto/2002/iituka_04_02.html))

※学校基本調査（2022）「年次統計-進学率（昭和23年~）-大学・短期大学の進学率」を参照

少数エリートが通っていた時代の大学と比較して我が国の大学教育の質の変化を懸念する声も出ており、グランドデザイン答申には、高等教育の大衆化に伴う変容を前提としても、教育の質を保証するための現在の取組は不十分との認識が示されている。（指針4頁）  
 → **高等教育の大衆化**に伴い**従来の教育のあり方**で良いかが問われている **(2022：60.4%)**。

# ■ 教学マネジメントが求められる背景

1. 学位を与える課程（**学位プログラム**）単位で、学生に必要な資質・能力を定めている。そのため、学位プログラム単位での**学修者視点での教育の捉え直し**が求められている。  
→ **「何を学び、身に付けることができたのか」**を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行う必要がある。
2. 学位の国際的通用性（学位の質保証）、社会的な説明責任の観点から、卒業段階で学生、大学ともに「何を学び、身に付けることができたのか」を説明できることが求められている。

# ■ インプット①の構成

1. 教学マネジメントが求められる背景
2. 教学マネジメント指針とその構造
3. 指針から読み解く5つの柱

# ■ 教学マネジメント指針とその構造

## 教学マネジメント指針が目指すゴール

- 学位を与える課程(学位プログラム)において、「何を学び、身に付けることができたのか」を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っている状態にする。



そのためには…

- 学生自らが学修成果を実感⇒学生が**自分の言葉で「何が身についたのか(学修成果)」**を説明できる状態にする。
- DPを満たした学生に学位を授与していると説明できる状態にする。

# 教学マネジメント指針の構造（対象）

## 教学マネジメント指針の対象範囲と想定される利用者

（文部科学省，2020）

### 教学マネジメント指針の対象範囲

- ・ **学士課程**、短期大学の課程（修士課程、博士課程も含む）
- ・ **正課教育**（大学が主体的に関与し、責任を有する正課外活動も含む）

### 教学マネジメント指針の利用者

- ・ **学長・副学長**や、**学部長**など個々の学位プログラム構築・運営の責任者



- ・ 教育課程、授業科目の担当者や運営者（教務に携わる教職員） の理解がなければ、実務的に取り組むことは難しい。

予測困難な時代を生き抜く自律的な学修者を育成するためには、学修者本位の教育への転換が必要。  
そのためには、教育組織としての大学が教学マネジメントという考え方を重視していく必要。

教学マネジメントとは

- 大学がその教育目的を達成するために行う管理運営であり、大学の内部質保証の確立にも密接に関わる重要な営みである。
- その確立に当たっては、教育活動に用いることができる学内の資源(人員や施設等)や学生の時間は有限であるという視点や、学修者本位の教育の実現のためには大学の時間構造を「供給者目線」から「学修者目線」へ転換するという視点が特に重視される。

教学マネジメント指針とは

- 学修者本位の教育の実現を図るための教育改善に取り組みつつ、社会に対する説明責任を果たしていく大学運営(=教学マネジメントがシステムとして確立した大学運営)の在り方を示すもの。
- ただし、教学マネジメントは、各大学が自らの理念を踏まえ、その責任でそれぞれの実情に応じて構築すべきものであり、本指針は「マニュアル」ではない。
- 教育改善の取組が十分な成果に結びついていない大学等に対し、質保証の観点から確実に実施されることが必要と考えられる取組等を分かりやすく示し、その取組を促進することを主眼に置く。
- 本指針を参照することが最も強く望まれるのは、学長・副学長や学部長等である。また、実際に教育等に携わる教職員のほか、学生や学費負担者、入学希望者をはじめ、地域社会や産業界といった大学に関わる関係者にも理解されるよう作成されている。

学長のリーダーシップの下、学位プログラム毎に、以下のような教学マネジメントを確立することが求められる。

「大学全体」レベル

## 三つの方針(「卒業認定・学位授与の方針」(DP)、「教育課程編成・実施の方針」(CP)、「入学者受入れの方針」(AP))

教学マネジメントの確立に当たって最も重要なものであり、学修者本位の教育の質の向上を図るための出発点

IV  
教学マネジメントを支える基盤  
(FD・SD、教学IR)

### I 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

- ✓ 学生の学修目標及び卒業生に最低限備わっている能力の保証として機能するよう、DPを具体的かつ明確に設定

### II 授業科目・教育課程の編成・実施

- ✓ 明確な到達目標を有する個々の授業科目が学位プログラムを支える構造となるよう、体系的・組織的に教育課程を編成
- ✓ 授業科目の過不足、各授業科目の相互関係、履修順序や履修要件について検証が必要
- ✓ 密度の濃い主体的な学修を可能とする前提として、授業科目の精選・統合のみならず、同時に履修する授業科目数の絞り込みが求められる

### 追補 「入学者受け入れの方針」に基づく大学入学者選抜の実施

- ✓ 入学段階で身に付けていることが求められる資質・能力等や、評価・判定の方法・基準について、「入学者受け入れの方針」に具体的に示す
- ✓ 入学者選抜が求める学生を適切に見いだすものとなっていたか、点検・評価を実施し、その結果を踏まえてAP等の見直しを実施

### III 学修成果・教育成果の把握・可視化

- ✓ 一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにするとともに、DPの見直しを含む教育改善にもつなげてゆくため、複数の情報を組み合わせて多角的に学修成果・教育成果を把握・可視化
- ✓ 大学教育の質保証の根幹、学修成果・教育成果の把握・可視化の前提として成績評価の信頼性を確保

- ✓ DPIに沿った学修者本位の教育を提供するために必要な望ましい教職員像を定義
- ✓ 対象者の役職・経験に応じた適切かつ最適なFD・SDを、教育改善活動としても位置付け、組織的かつ体系的に実施
- ✓ 教学マネジメントの基礎となる情報収集基盤である教学IRの学内理解や、必要な制度整備・人材育成を促進

「学位プログラム」レベル

「授業科目」レベル

各取組を、大学全体、学位プログラム、授業科目のそれぞれのレベルで実施しつつ、全体として整合性を確保。

学位プログラム共通の考え方や尺度(アセスメントプラン)に則り、大学教育の成果を点検・評価

### V 情報公表

- ✓ 各大学が学修者本位の観点から教育を充実する上で、学修成果・教育成果を自発的・積極的に公表していくことが必要
- ✓ 地域社会や産業界、大学進学者といった社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を図る上でも情報公表は重要

積極的な説明責任

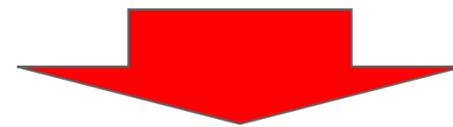
社会からの信頼と支援

# ■ 教学マネジメントの構造(カリキュラム編成の基本原則)

カリキュラム編成の基本原則（タイラー原理）（タイラー, 1978）

教育目標と授業と評価を一貫したものにすることを強調したモデル

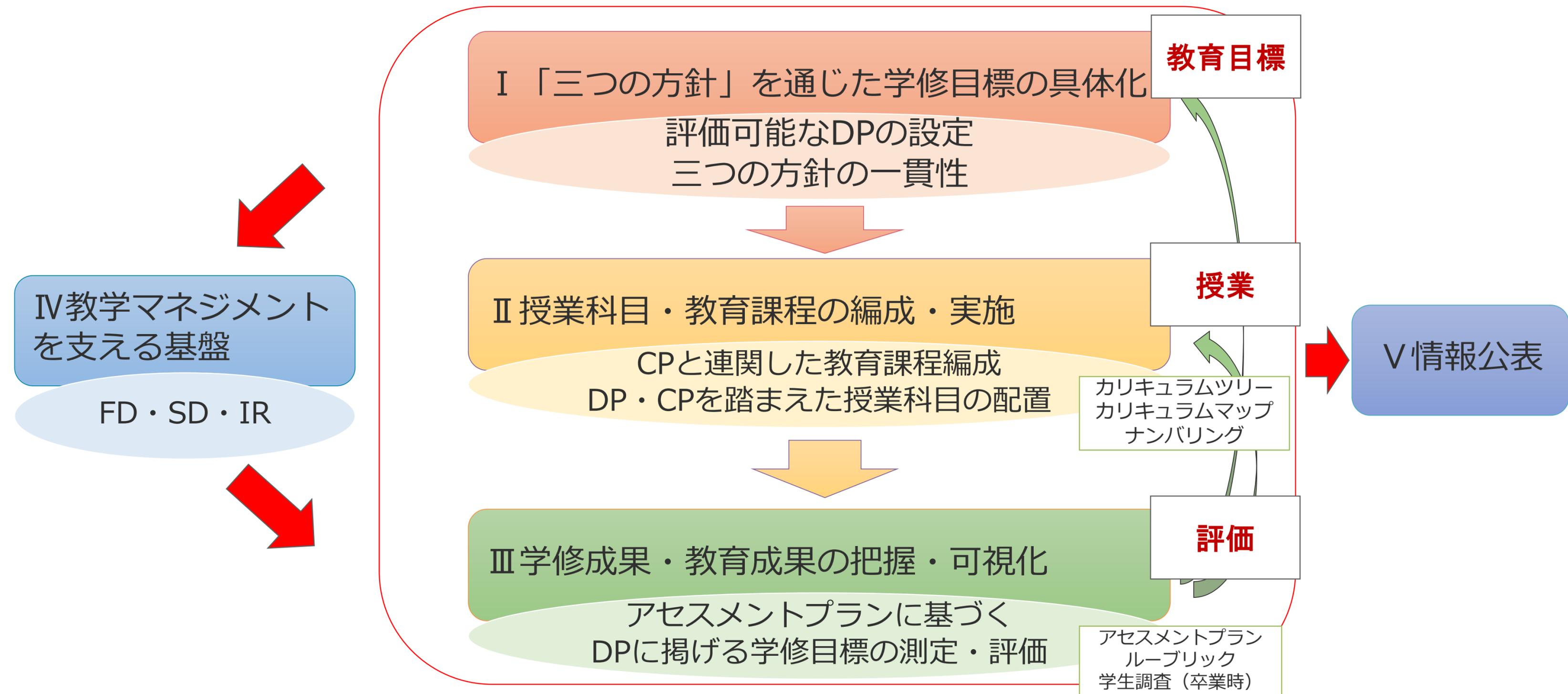
1. どのような教育目的を達成するように努めるべきか。
2. これらの目的を達成するために、いかなる教育的経験を用意できるか。
3. これらの教育的経験はどのようにすれば効果的に組織することができるのか。
4. これらの目的が達成されたかどうかをいかにして判定できるか。



学生が達成する教育の成果を定めてから授業を設計するカリキュラム編成の方法である「**逆向き設計**」として方法が洗練されている。

※中井編（2021）を参照

# ■ 教学マネジメントの構造（5つの柱の関係性）



指針は「**逆向き設計**」を踏まえた5つの柱から構成されている。

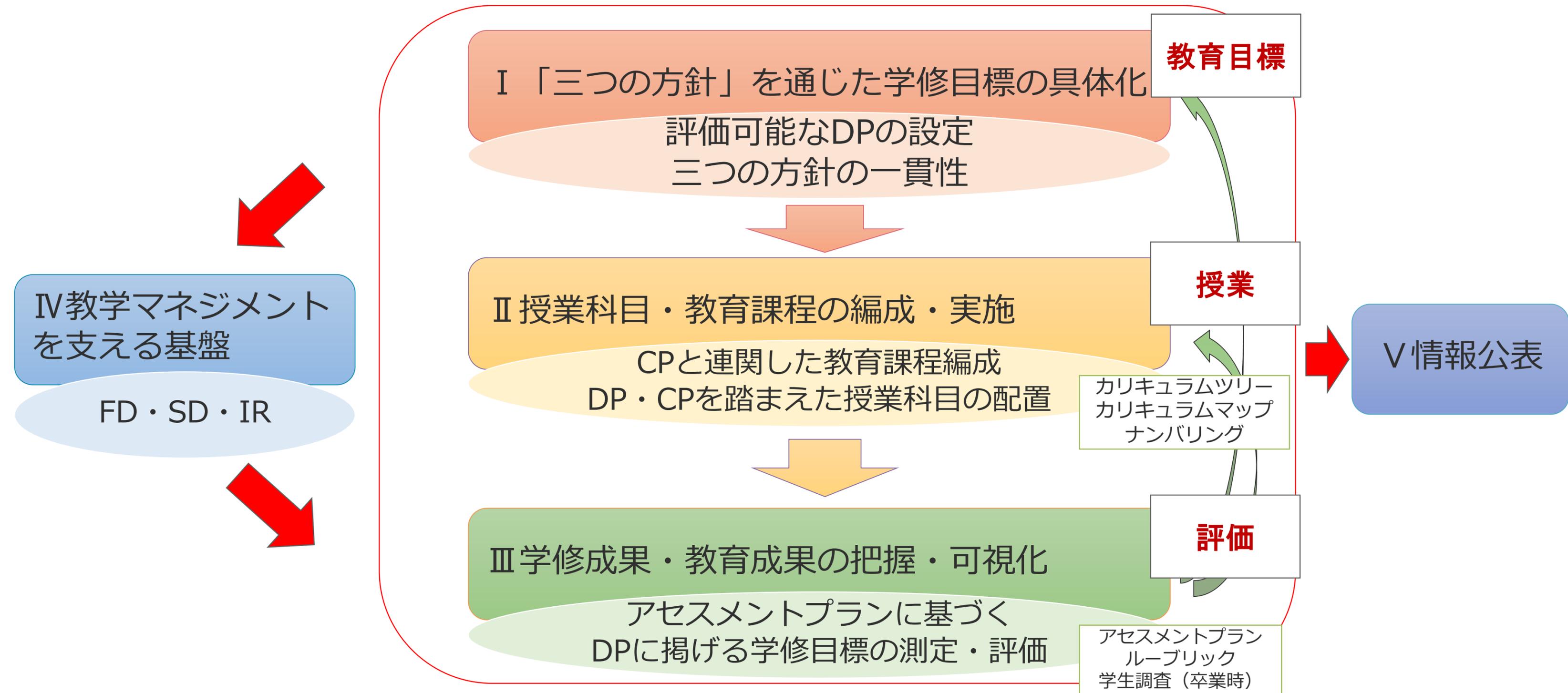
## ■ 教学マネジメントの「肝」①

1. 指針は「**学修者目線**」で**教育を捉え直す**ことを求めている。
2. 大学がDPに掲げる学修目標を満たした学生に学位を授与していると**説明できる状態**にすることが求められている。
3. 教学マネジメント指針は、**カリキュラム編成の基本原則**や「**逆向き設計**」の考え方を参照し、**教育目標→授業→評価の一貫性**を踏まえた構成になっている。

# ■ インプット①の構成

1. 教学マネジメントが求められる背景
2. 教学マネジメント指針の構造
3. 指針から読み解く 5つの柱

# 【再掲】 教学マネジメントの構造(5つの柱の関係性)



指針は「**逆向き設計**」を踏まえた5つの柱から構成されている。

# 指針から読み解く5つの柱（I）

## 「三つの方針」を通じた学修目標の具体化

（文部科学省，2020）

出発点である「三つの方針」とディプロマ・ポリシー（DP）に掲げる学修目標の具体化

・ DPは、学生の学修目標として、以下の点を踏まえて設定する必要がある。

① 卒業生に最低限備わっている能力を保証するものであること

② 具体的かつ明確に定められることが必要である。

・ 大学教育の成果を学位プログラム共通の考え方や尺度（アセスメントプラン）に則って点検・評価できるようにすること必要である。



「三つの方針」は出発点である。ディプロマ・ポリシー（DP）は、① **具体的かつ明確に定められること**、② DPに掲げる学修目標の設計段階から**測定・評価（アセスメントプランとの対応関係）を意識すること**が求められている。

# 指針から読み解く5つの柱（Ⅱ）

## 授業科目・教育課程の編成・実施

（文部科学省，2020）

- ・ DPに掲げる学修目標を達成する観点からは、以下の点を踏まえて設定する必要がある。
  - ①体系的かつ組織的な教育課程を編成していること（カリキュラムマップ、ツリーによる整理）
  - ②個々の授業科目の到達目標が明確であり、学修目標との対応関係が整理されていること
- ・ 教育課程の編成に係る点検・評価には、カリキュラムマップ、ツリーを活用できる。
  - ①授業科目が過不足なく設定しているかの検証（カリキュラムマップ）  
→4年間通じて受講せずに済む能力（DPに掲げる学修目標）がないか、偏りがないか等
  - ②各授業科目相互の関係、履修順序や履修要件の検証（カリキュラムツリー）
  - ③授業科目の精選・統合、学生が同時に履修する授業科目数の絞り込み（両者を活用）



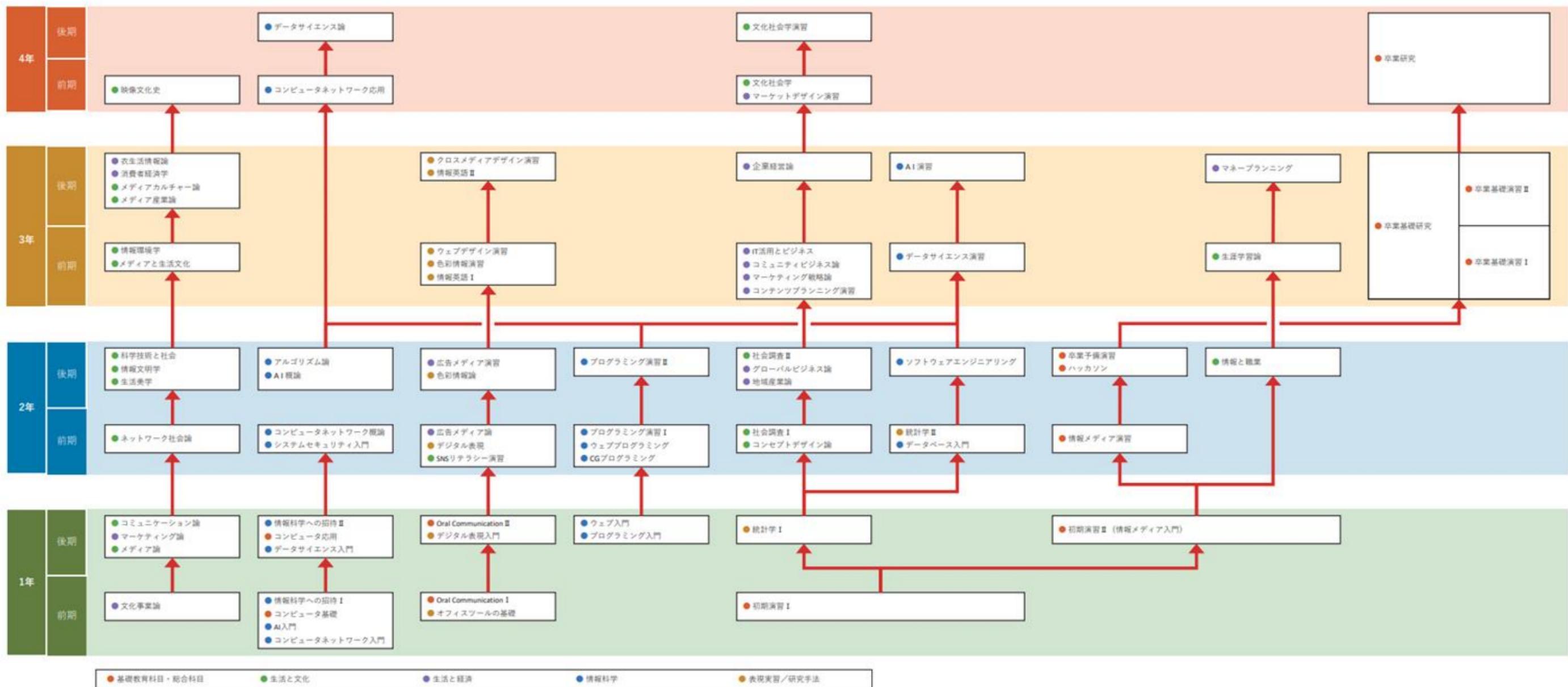
カリキュラムマップ（DPの学修目標と授業科目の関係性）、カリキュラムツリー（履修順序）の策定過程を通じた点検・評価を行うことが体系的かつ組織的な教育課程の編成を行う一歩となる。

# 指針から読み解く5つの柱（Ⅱ）【参考】

## 武庫川女子大学生活環境学部情報メディア学科 カリキュラムツリー

2022年度 情報メディア学科（情報メディア専攻）

DP1		DP2		DP3		DP4		DP5
1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1
社会生活に関わる事象に対し、社会的・経済的な観点から専門的な知識を有している。	社会生活に関わる事象に対し、情報科学の観点から専門的な知識を有している。	ソーシャルネットワークを活用するためのコミュニケーションやプレゼンテーションに関する技術を有している。	コンピュータ等のICT機器を活用して、情報を加工・分析するための技術を有している。	社会的・経済的な観点から身につけた専門的な知識や技能から、ICT社会の課題を論理的に分析し、問題を解決する能力を有している。	情報科学の観点から身につけた専門的な知識や技能から、ICT社会の課題を論理的に分析し、問題を解決する能力を有している。	ICT社会における課題を自ら発見し、他人との協働を通して解決しようとする積極的な態度を有している。	生涯にわたって自分の社会的キャリアを開拓し、社会の発展に貢献する意欲と向上心を有している。	文壇にわたる専門的な知識・技術の機会を創り、ICT社会において、新しい価値を創出できる能力を有している。



# 指針から読み解く5つの柱（Ⅱ）【参考】

## 武庫川女子大学生活環境学部情報メディア学科 カリキュラムマップ

### 令和4年度入学生用カリキュラムマップ

【情報メディア学科】

【1年前期・基礎】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	5-1			
22UIMC1001	初期演習Ⅰ	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアデザインを自ら構築する。	大学の修学の基礎となる単位制を理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を把握し、自らのキャリアデザインを組み立てる力を身につける。また、良識ある社会人となるための社会人基礎力の必要性を理解し、その基盤となる十分なコミュニケーション能力を培い、基本的な社会ルールを理解し、本学学生としての誇りと自覚を身につける。さらに、学習・研究を進める上での倫理の基礎となる情報の取り扱いに関する知識を身につける。						◎	◎					
22UIMC1002	初期演習Ⅱ（情報メディア入門）	1	「初期演習Ⅱ」の目的は、初年次学生が、学院の教育理念と歴史について学び、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学部・学科の教育目標を達成するように導くことである。	1. 「立学の精神」、それに基づく「教育目標」、「教育推進宣言」、学院の歴史について理解する。 2. 主体的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。 3. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。 4. 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。								◎	◎			
22UIMC1003	コンピュータ基礎	1	実社会での活動において、IT（情報技術）に関する基礎知識は必須と言われており、ITを軸にした形で社会の営みを理解することが重要である。 本講義では、ITに関する基礎知識を身につけ、組織運営や商取引にITがいかに活用されているかを正しく理解することを目的とする。	情報メディア学科で開講する各種の専門科目（情報技術系、経営学系）を実践的に理解するための基礎知識を獲得する。また、IPAが主催する国家資格「ITパスポート試験」に合格することを目指す。		◎		○								
22UIMC1004	コンピュータ応用	1	実社会での活動において、IT（情報技術）に関する基礎知識は必須と言われており、ITを軸にした形で社会の営みを理解することが重要である。 本講義では、ITに関する基礎知識を身につけ、組織運営や商取引にITがいかに活用されているかを正しく理解することを目的とする。	情報メディア学科で開講する各種の専門科目（情報技術系、経営学系）を実践的に理解するための基礎知識を獲得する。また、IPAが主催する国家資格「ITパスポート試験」に合格することを目指す。		◎										
22UIMC1005	Oral CommunicationⅠ	1	英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認しながら、実際に「英語を使う」ことを経験することによって、コミュニケーション能力を養う。	1. 基本的な日常の英語会話ができる。 2. 英語の基礎文法や語彙を理解する。						◎						
22UIMC1006	Oral CommunicationⅡ	1	英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認しながら、様々な場面設定の中で、実際に「英語を使う」ことを経験することによって、コミュニケーション能力を養う。	1. 様々な場面での基本的な英語会話ができる。 2. 英語の基礎文法や語彙を理解する。						◎						

# 指針から読み解く5つの柱（Ⅲ）

## 学修成果・教育成果の把握・可視化について

（文部科学省，2020）

- ・ 学修成果・教育成果の把握・可視化は以下の点を満たすことが求められる。
  - ①学生自らが学びの成果（学修成果）として**身に付けた資質・能力を自覚**していること。
  - ②学生自らがDPの学修目標の到達状況を可視化された**エビデンスを用いて自ら説明**できること。
  - ③学修目標の到達状況は、**複数の情報を組み合わせて多角的に説明**できること。
  - ④大学がDPに掲げる**資質・能力（学修目標）を備えた学生を育成したことが説明**できること。
  - ⑤**学修成果の測定・把握方法（アセスメントプラン）を予め明文化し、DPの学修目標との対応関係が整理できている**こと。



学習者である学生及び大学には、**DPに掲げる学修目標（資質・能力）の達成度合いをエビデンスを交えて説明**できること。また、**DPの学修目標との対応関係を整理した測定・把握方法（アセスメントプラン）が明文化**されていること。

# ■ 教学マネジメントの構造(学修目標のエビデンス)

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標と学修成果・教育成果に関する情報の関係（イメージ）（文部科学省，2020）

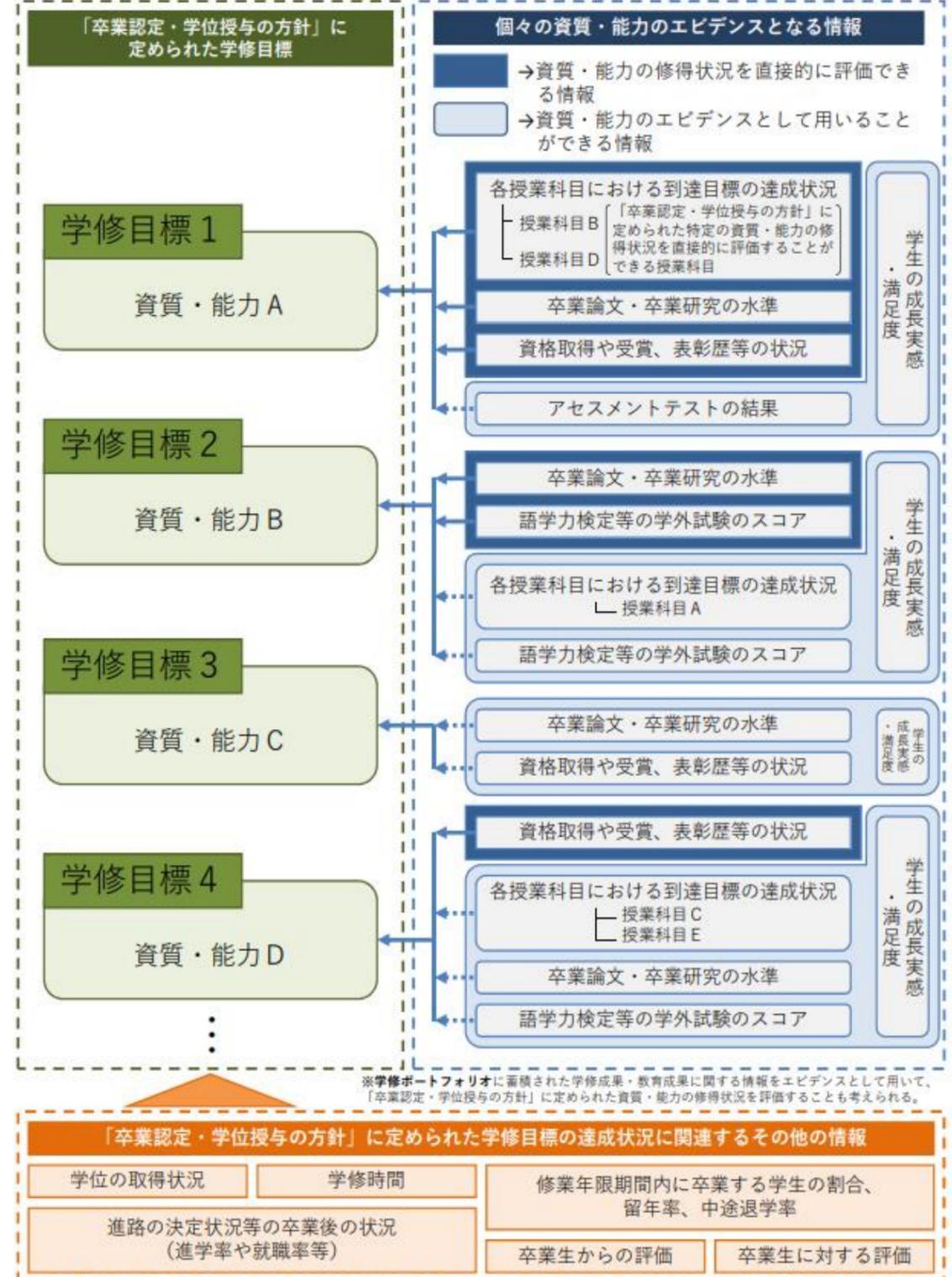
- 様々な情報を組み合わせてDPに掲げる学修目標の到達状況を明らかにする。
- その際、DPの各項目に紐づけて整理する必要がある。



予め以下のツールを活用し、DPの到達状況を把握しやすい環境を整備することが考えられる。

- カリキュラムツリー、マップ
- アセスメントプラン
  - アセスメントポリシー、チェックリスト など

DPに掲げた学修目標に対する評価指標の設定を求めている。



# 指針から読み解く5つの柱（Ⅲ）

大学の理念・目的  
教育研究上の目的

学位授与方針  
(ディプロマ・ポリシー)

アセスメント・ポリシー

## ルーブリック

DP項目	項目	5	4	3	2	1
主体性	積極性	自ら興味を持って課題への取り組みや関連する知識の取得を能動的に遂行できる。	積極的に課題へ取り組み、問題解決しようとする。	指導教員や上級生の指導を尊重して、課題への取り組みができる。	研究として行うべきことを理解できておらず、指導教員の指示を待つ状態が多い。	指導教員に従わず、課題に取り組むことができない。
思考力・判断力主体性	理解度	国内外の様々な研究に関する最新情報を自ら調査し、研究に関連付けできる。	教員の指導に基づいて、国内外の関連研究に関する情報を整理して、研究に関連づける。	国内外の関連研究についても把握できているが、情報を整理して研究に利用できない。	指導教員が直接伝えた研究内容は理解している。	研究内容をあまり理解できていない。
..... (以下、略) .....						

## DPの学修目標の測定

### アセスメントプラン (カリキュラムアセスメント・チェックリスト)

名称	実施時期	実施頻度	対象	質問項目 (対応するDP含む)	手法	評価者	実施者	DP評価への使い方
学生調査 (卒業予定者)	12月	毎年	卒業予定者	DPに示された資質能力の修得状況	web	学生	内部質保証委員会	DP全項目の到達度の自己評価
卒業研究発表	2月	毎年	卒業予定者	研究内容と発表を通して、DPに示された資質能力の修得状況	ルーブリック	教員	学科・専攻	DP全項目の到達度の客観評価
..... (以下、略) .....								

# 指針から読み解く5つの柱（Ⅲ）【参考】

## 1. 大学の教育活動に伴う基本的な情報であって全ての大学において学内で収集可能と考えられるものの例

各授業科目における到達目標の達成状況

学位の取得状況

学生の成長実感・満足度

進路決定状況等の卒業後の状況（進学率や就職率など）

修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年率、中途退学率

学修時間

学生調査（新入生・在学生・卒業予定者）、  
学修ポートフォリオ、他の外部アセスメントテスト

## 2. 教学マネジメントを行う上で各大学の判断の下で収集することが想定される情報の例

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた特定の資質・能力の修得状況を直接的に評価することができる授業科目における到達目標の達成状況

卒業論文・卒業研究の水準

アセスメントテストの結果

語学力検定等の学外試験のスコア

資格取得や受賞、表彰歴等の状況

卒業生に対する評価

卒業生からの評価

民間企業実施のアセスメントテスト  
学生調査（新入生・在学生・卒業予定者）、  
学修ポートフォリオ、ルーブリック  
卒業生対象のアンケート

※教学マネジメントを推進するに際して必要な情報例が示されている。

# 指針から読み解く5つの柱 (IV)

## 教学マネジメントを支える基盤 (FD・SDの高度化、教学IR体制の確立)

(文部科学省, 2020)

- ・ IR・FD・SDに取り組む際には、以下の点に留意する必要がある。
  - ①学内で教学IR活動を行う上で**必要な体制、仕組み、情報環境（権限付与含む）等を整えること。**
  - ②分析結果・得られた情報を踏まえた**判断を下すのはマネジメント層の役割**と理解すること。
  - ③FD・SDを通じた**共通理解を構築すること**（教育理念、DP、教員像、課題等）。
  - ④**対象者の役職や経験に応じた**適切かつ最適なFD・SDを**組織的かつ体系的**に実施すること。
  - ⑤FDを**実際に教育を改善する活動として位置付け、実施すること。**



まずは、FD・SDを通じて**教学マネジメントに対する共通理解が浸透する機会**を設ける。

(大学の実態や文脈を踏まえた**ゴール設定**を行うことも必要である)

**IRで収集・分析した結果**を踏まえて、**教育改善する活動をFDとして位置付け、実施**する。

# 指針から読み解く5つの柱（V）【参考】

## 情報公表について

（文部科学省，2020）

- ・ 教育活動に対する情報公表は、以下の点が目的・意義としてあげられる。
  - ① 学生や学費負担者、入学希望者等の直接の関係者、幅広く社会に対して説明責任を果たすこと。
    - 学生がどのような学位プログラムにおいて、どのような能力等を身に付けることができるのか、適切な教育環境が整備されているか等を具体的に提示すること
    - 大学が、広く有形無形の様々な支援を得ている社会に対し、教育という公共的使命を担う社会的存在として、大学教育に関する情報を積極的に公表すること
  - ② 社会からの信頼と支援を得るという好循環を形成すること。
  - ③ 社会からの評価を通じた大学教育の質の向上を進めること。
    - 教職員個人の関係から、地域社会や産業界等と恒常的な「組織対組織」の連携を深め、その協力を継続的に得ていくために、大学からより具体的な情報の発信を行うこと

# 指針から読み解く5つの柱（追補版）【参考】

## 「入学者受入れの方針」に基づく大学入学者選抜の実施

（文部科学省，2023）

- 各大学は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の幅広さと水準を十分踏まえつつ、「入学者受入れの方針」において、入学段階で備えておくべき資質・能力等について具体的に示す必要がある。また、適切なタイミングで、「入学者受入の方針」及びこれに基づいて実施される入学者選抜が、求める学生を適切に見いだすものとして適切なものとなっていたか点検・評価し、その結果を踏まえて同方針の見直しを行う必要がある。



「入学者受入れの方針」を設定する際に以下を意識しているか。

- 「卒業認定・学位授与の方針」に定められた学修目標の幅広さや水準
- 「教育課程編成・実施の方針」に定められた教育課程の内容・方法

「入学者受入れの方針」と入学者選抜との対応関係や、初年次開設科目を履修するための必要な資質・能力を備えていたかという点検・評価が必要となる。

# 指針から読み解く5つの柱

全学

大学の理念・目的  
教育研究上の目的

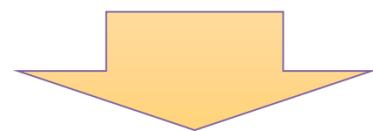


組織レベル  
(学部・研究科等)

学位授与方針  
(ディプロマ・ポリシー)



教育課程の編成・実施方針  
(カリキュラム・ポリシー)



学生の受け入れの方針  
(アドミッション・ポリシー)

## 三つの方針

- ①一貫性があるのか？  
(1)全学→学部→学科の一貫性があるのか？  
(2)DP→CP→APの一貫性があるのか？  
(3)CPと教育課程の内容が連動しているのか？  
(4)APと入試制度が連動しているのか？
- ②学位プログラムごとに策定されているのか？
- ③全学部・学科の三つの方針の統一性があるのか？
- ④DPの学修目標のレベルが高すぎないか？
- ⑤DPがアセスメントが可能な項目となっているのか？

## 教育課程

教育課程の体系性

### カリキュラムマップ

	知識・ 技能	思考力・ 判断力・ 表現力	主体性・ 協働性
心理学	◎	○	
..... (以下、略) .....			

### カリキュラムマップ策定上の留意点

カリキュラムにおいて全ての学生がDPの全てを修得できるようになっているか？

教育課程の順次性

カリキュラムツリー  
+  
ナンバリング

個人

### シラバス

科目の到達目標にどのDPの学修目標の習得を目指すか明示する

各種入試制度

# ■ 教学マネジメントの「肝」②

- ・【学生】 学生が**自分の言葉で「何が身についたのか（学修成果）」**を説明できる状態にする。
- ・【大学】 DPを満たした学生に学位を授与していると説明できる状態にする。



- ①DPに掲げる学修目標に対する到達度を測定できるようにする。  
→「**I 『三つの方針』を通じた学修目標の具体化**」と対応（測定可能な**学修目標**かを確認）。
- ②到達度（学修成果）の把握・評価が可能となるようにアセスメントプランを設計する。  
→「**Ⅲ学修成果・教育成果の把握・可視化**」と対応（**アセスメントプラン**で方法、手段等を整理）。
- ③DPに掲げる学修目標を身に付けられる**教育課程**を編成している。  
→「**Ⅱ授業科目・教育課程の編成・実施**」と対応（**カリキュラムマップ、ツリー**で対応関係を整理）。
- ④DPに掲げる学修目標と**授業科目**との対応関係を整理できている。  
→「**Ⅱ授業科目・教育課程の編成・実施**」と対応（**シラバス**で対応関係を整理）。
- ⑤到達度（学修成果）の評価結果を踏まえた**組織的な教育改善**を行うことができる  
→「**Ⅳ教学マネジメントを支える基盤**」と対応（**IR**で得たデータを使い、**FD**を実施）。

# ■ 教学マネジメントが求められる背景【再掲】

Q.皆さんは、質保証や認証評価、教学マネジメントは何のために必要だと思いますか？

1. 認証評価をクリアするため
2. 法令対応を行うため
3. 補助金や外部資金を獲得するため
4. 政府や文部科学省等の政策に対応するため
5. **大学の理念・目的を実現するため**←内部質保証・教学マネジメントでも言及
6. **学生の成長に資するため**←学修者本位の教育、学修成果の把握・評価
7. その他
8. 分からない

「教学マネジメント指針」より抜粋

一人一人の学生が自らの学びの成果（学修成果）として身に付けた資質・能力を自覚できるようにすることが重要である。

# 参考・引用文献

- ・ 大学基準協会（2019）『大学評価ハンドブック（2019年改訂）』
- ・ 大学基準協会（2018）「大学評価システムの概要と大学基準協会が求める内部質保証システムについて（パワーポイントハンドアウト）」  
[https://www.juaa.or.jp/images/accreditation/pdf/explanation/university/2018/ex\\_u\\_18\\_01.pdf](https://www.juaa.or.jp/images/accreditation/pdf/explanation/university/2018/ex_u_18_01.pdf)
- ・ 中井俊樹編著（2021）『大学SD講座2 大学教育と学生支援』玉川大学出版部
- ・ 文部科学省（2020）「教学マネジメント指針」（中央教育審議会大学分科会）
- ・ ラルフ・W・タイラー（金子孫市監訳）（1978）『現代カリキュラム研究の基礎－教育課程編成のために』日本教育経営協会

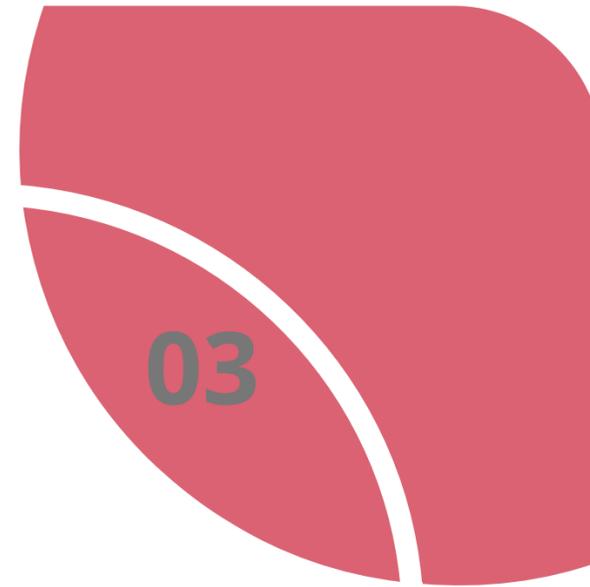
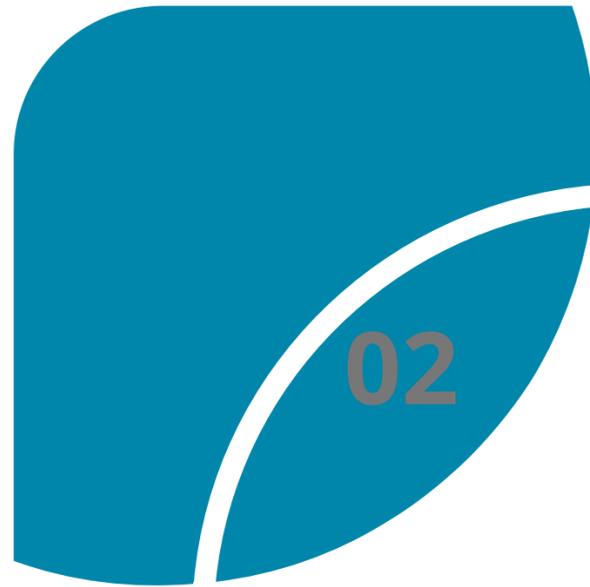
# インプット② 学修者本位とは



# 本講座の到達目標

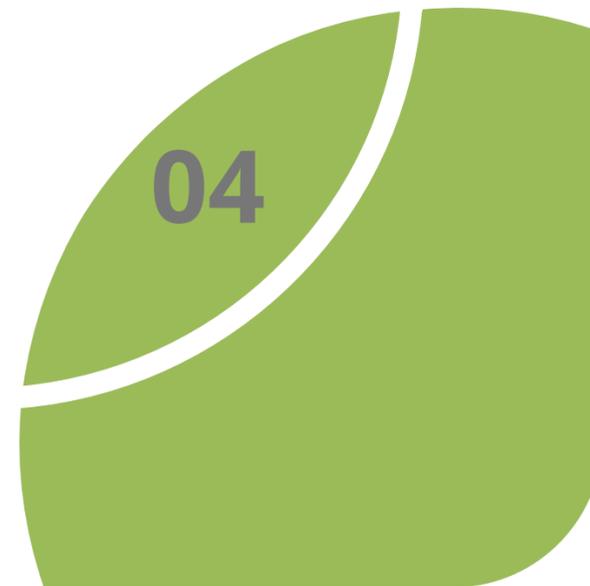
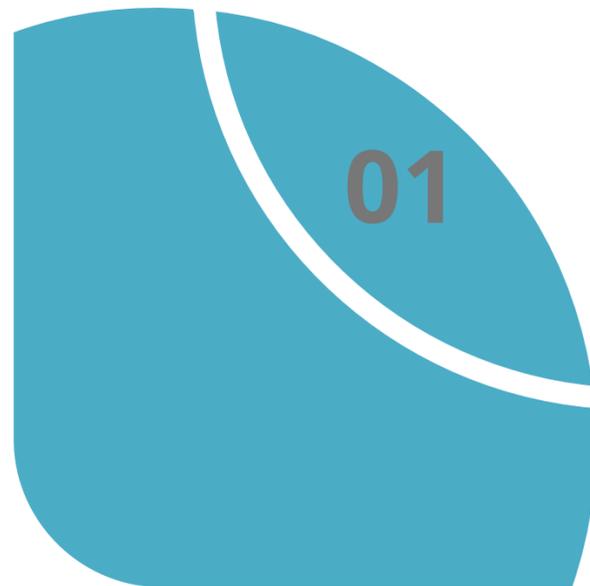
## 到達目標②

学修者本位とは何かを説明することができる。



## 到達目標③

所属組織における教学マネジメントの課題を抽出することができる。



## 到達目標①

教学マネジメントの5つの柱を説明することができる。

## 到達目標④

教学マネジメント上の課題の解決案を提案することができる。

# 学修者本位の教育とは

2018年、グランドデザイン答申に登場。

学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を  
明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育

- 「何を教えたか」から、「何を学び、身に付けることができたのか」への転換が必要となる～（中略）～教育課程の編成においては、学位を与える課程全体としてのカリキュラム全体の構成や、学修者の知的習熟過程等を考慮し、単に個々の教員が教えたい内容ではなく、学修者自らが学んで身に付けたことを社会に対し説明し納得が得られる体系的な内容となるよう構成することが必要となる。（グランドデザイン答申P.6）
- 学修者本位の教育の実現とは、各高等教育機関の既存のシステムを前提とした「供給者目線」を脱却し、学位を与える課程（学位プログラム）が、学生が必要な資質・能力を身に付ける観点から最適化されているかという「学修者目線」で教育を捉え直すという根本的かつ包括的な変化を各機関に求めているものである。（教学マネジメント指針P.1）

「何を学び、身に付けることができるのか・できたのか」が学修者本位のキーワード。

# ■ 学修者本位の教育でないとはどういうものか

学修の目標が具体的に定まっていない。どこに向かって学修するのか、教育するのか、わからない。

個々の教員が教えたい授業をしている。学修者の知的習熟課程が考慮されていない。

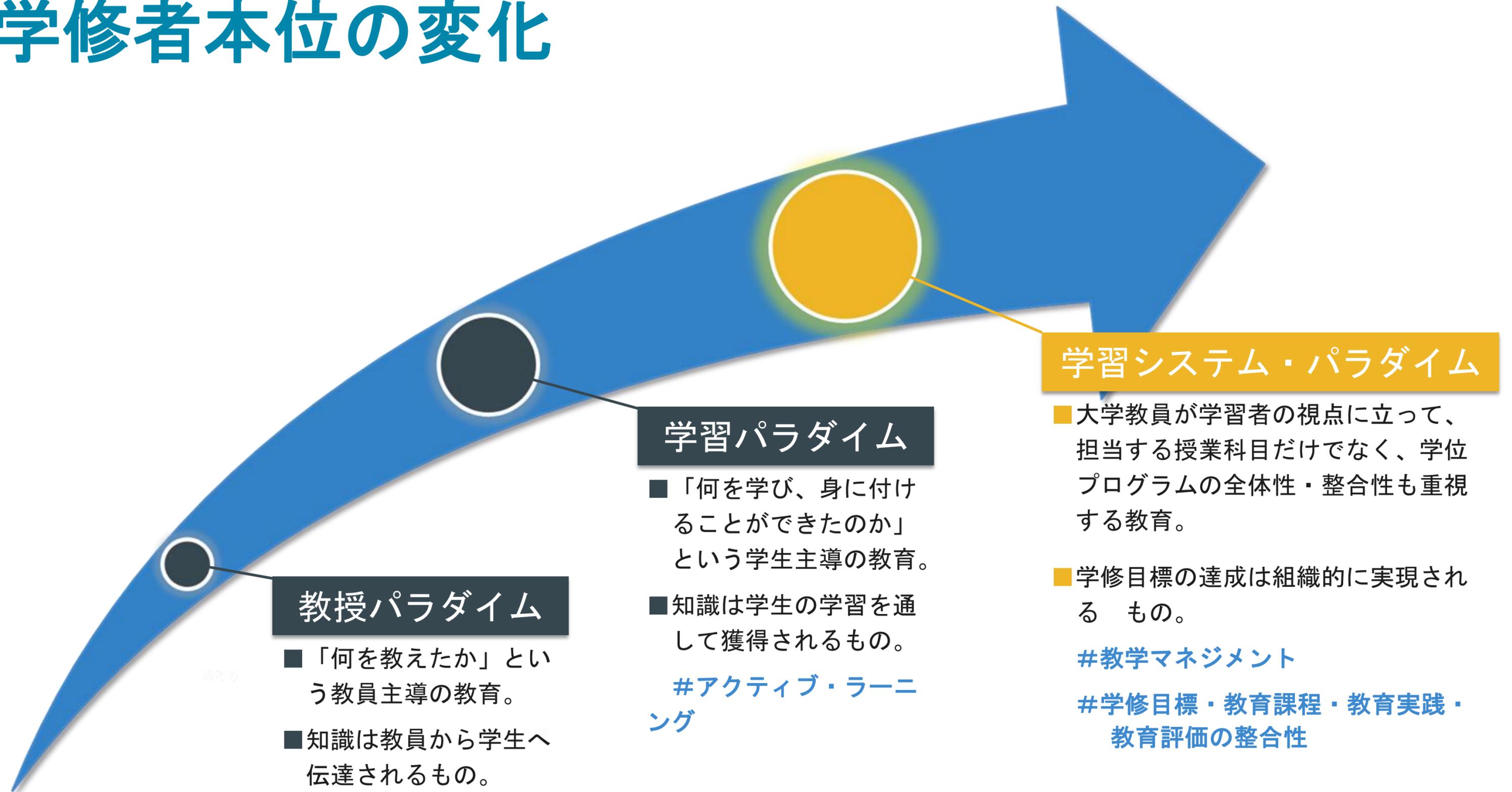
学修者が成長していない、学修の成果も出ていない。あるいは成長してるか、成果が出ているかわからない。

教職員が学修者のことを考えていない。学修者の成長を可視化できる人材がいない。

学修者が自ら学んで身に付けたことを社会に説明できない。大学もその情報を公表していない。

組織や構成員が「何を学び、身に付けることができたのか」にこだわっていない教育

# 学修者本位の変化



「何を学び、身に付けることができたのか」を組織的に達成するフェーズへ。

# 参考文献・引用文献

- 櫻井秀彦（2021）：医療提供組織における患者志向と職務満足ならびに組織コミットメントの関連性、日本医療・病院管理学会誌、58(2)、pp35-49
- 中央教育審議会（2008）：学士課程教育の構築に向けて（答申）  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm)、閲覧日2022年6月30日
- 中央教育審議会（2012）：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm)、閲覧日2022年6月30日
- 中央教育審議会（2014）：新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1354191.htm)、閲覧日2022年6月30日
- 中央教育審議会（2018）：2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm)、閲覧日2022年6月30日
- 中央教育審議会大学分科会（2020）：教学マネジメント指針、  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360\\_00001.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00001.html)、閲覧日2022年6月30日
- 深堀聰子（2020）：課題研究シンポジウム 大学教員の「エキスパート・ジャッジメントの涵養」と大学組織の「学習システム・パラダイムへの転換」：研究課題と概念整理、大学教育学会誌= Journal of Japan Association for College and University Education、42(1)、pp63-67

An aerial photograph of a university campus. The foreground shows several large, multi-story brick buildings with grey roofs, arranged in a U-shape around a central courtyard. The middle ground shows a mix of green spaces, parking lots, and smaller buildings. In the background, there are rolling green hills and mountains under a clear blue sky. A semi-transparent blue rectangular box is overlaid across the middle of the image, containing white Japanese text.

ご清聴ありがとうございました。